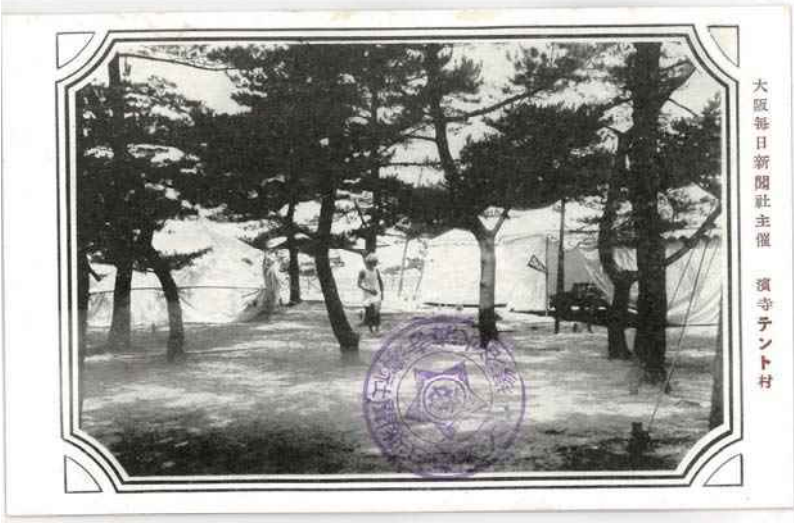


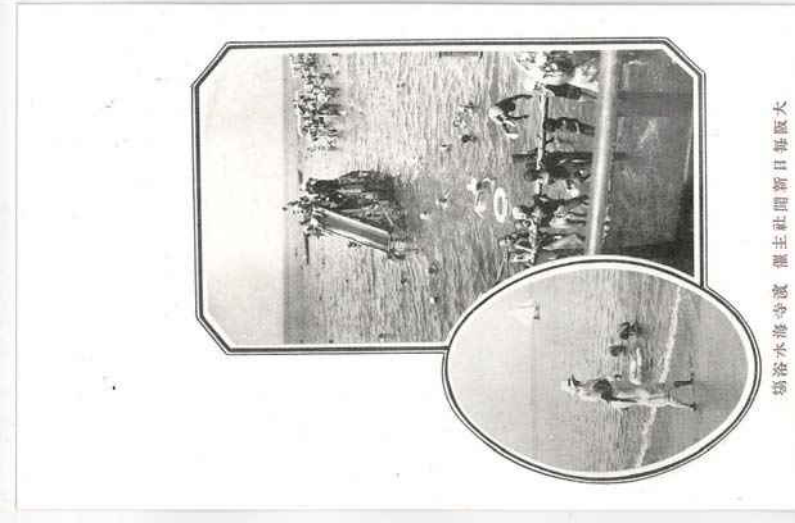
高石市教育委員会蔵 大正新聞社蔵 高石市教育委員会蔵



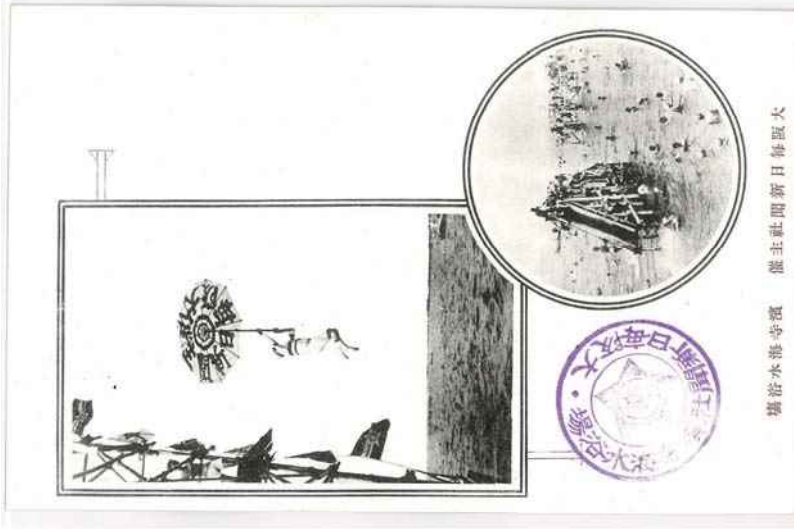
高石市教育委員会蔵 大正新聞社蔵 高石市教育委員会蔵



大坂毎日新聞社主催 湯治大池



大坂毎日新聞社主催 湯治大池

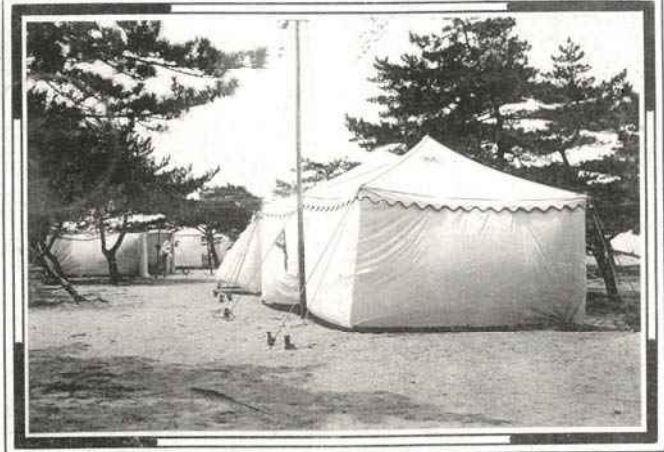


大坂毎日新聞社主催 湯治大池



大坂毎日新聞社主催 湯治大池

資料提供：高石市教育委員会所蔵辻本攻コレクション ※無断転載を禁じます。

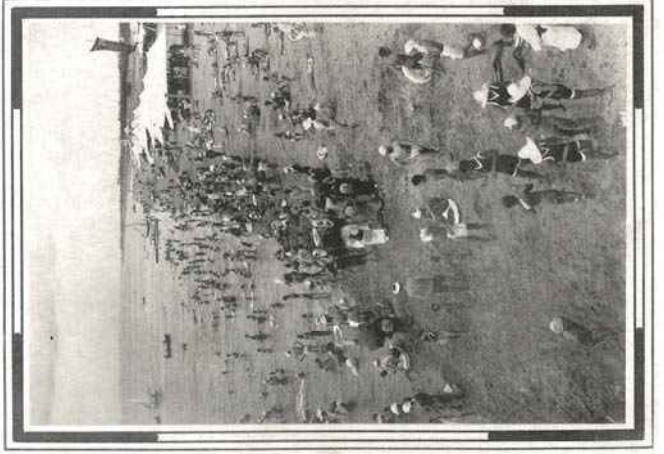


大阪毎日新聞社主催

濱寺テント村



濱寺海水浴場 大阪毎日新聞社主催



大阪毎日新聞社主催

濱寺海水浴場



濱寺海水浴場 大阪毎日新聞社主催



(近 附 堂 樂 音)

跡 名 寺 濱



(岸 海 寺 濱)

跡 名 寺 濱



催主社開新日每版大  
場浴水海寺濱



(所 憩 休 岸 海 園 公)

跡 名 寺 濱

資料提供：高石市教育委員会所蔵辻本攻コレクション ※無断転載を禁じます。



濱寺海水浴場



濱寺公園 松林園



(大鳥神社其一) 濱寺名所



濱寺海水浴場



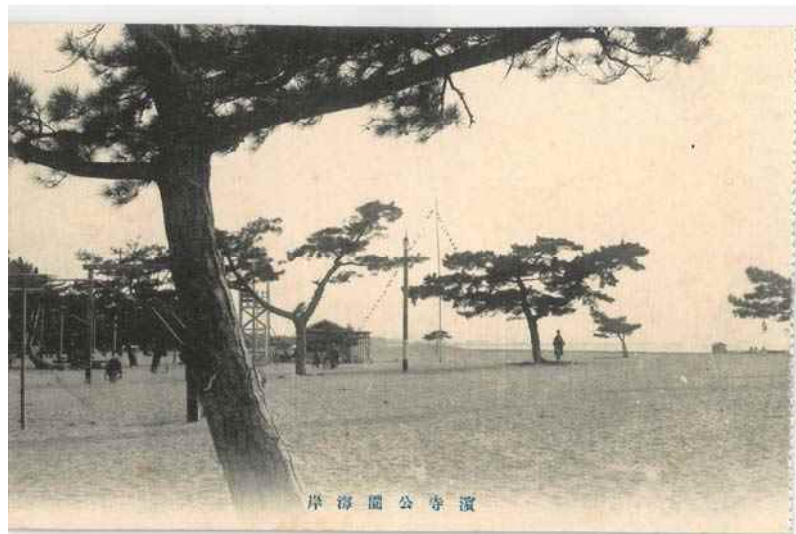
松返見口入 園公寺濱



夕日海濱

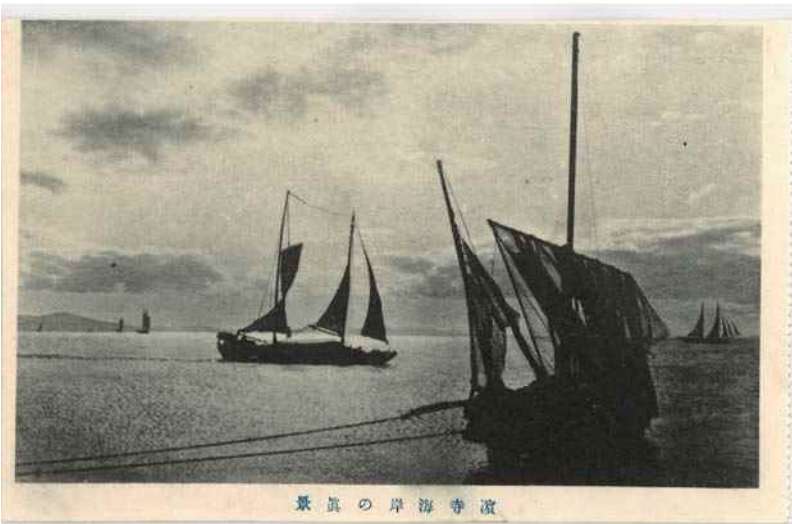


碑公通利保久大 園公寺濱



岸海園公寺濱

資料提供：高石市教育委員会所蔵辻本攻コレクション ※無断転載を禁じます。



景眞の岸海寺濱



堂會公 園公寺濱



場園遊岸海 園公寺濱



岸海園公寺濱



口入 店支寺宿樓芳川 館旅街理料御



口入の店支寺宿樓芳川



口入岸海 店支寺宿樓芳川 館旅街理料御



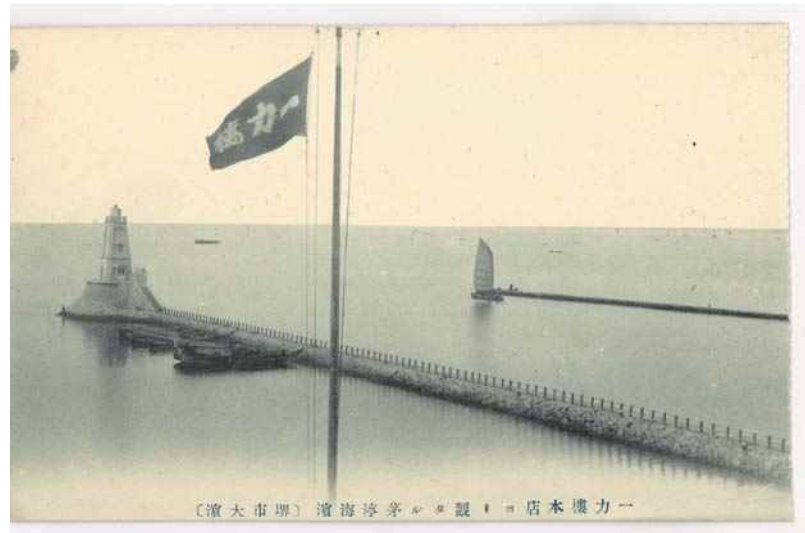
筑座新 店支寺宿樓芳川 館旅街理料御

資料提供：高石市教育委員会所蔵辻本攻コレクション ※無断転載を禁じます。





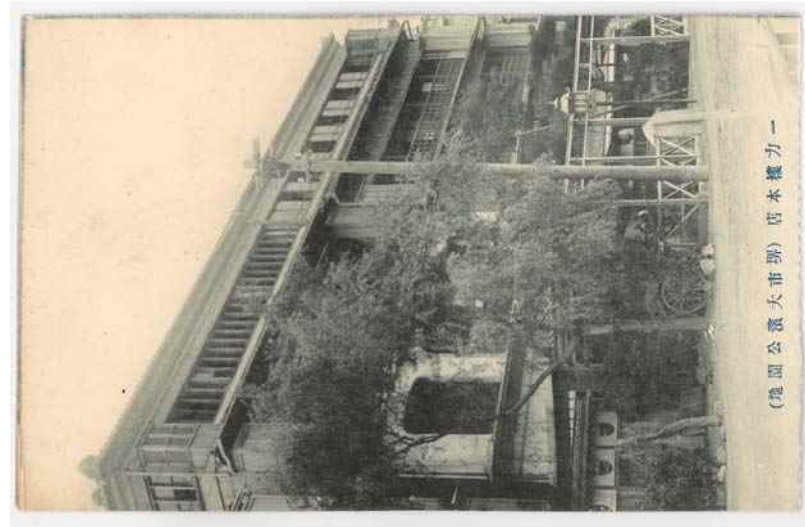
京都深草寺公一樓支店新産敷



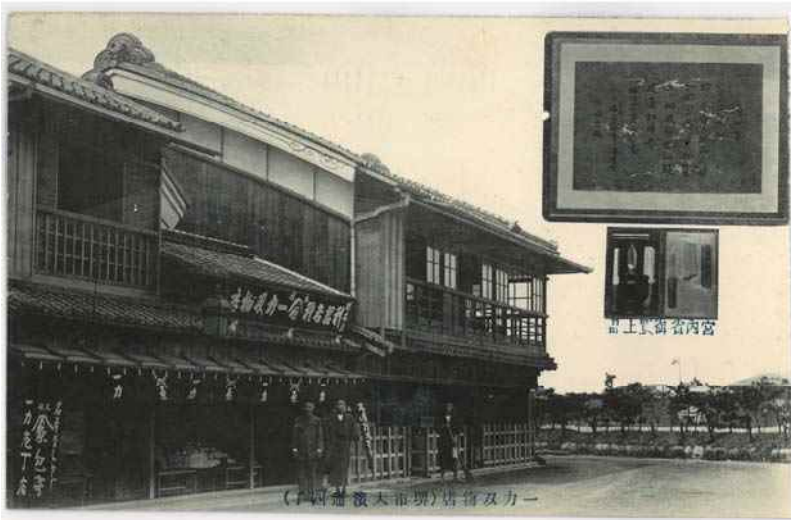
一樓支店 芳川樓支店 芳川樓支店 芳川樓支店



御料理旅館 川芳樓支店 支店 支店



一樓支店 支店 支店



(干田通浪大市場) 店舎双方一



(地圃公寺濱州泉) 館新店支樓方一

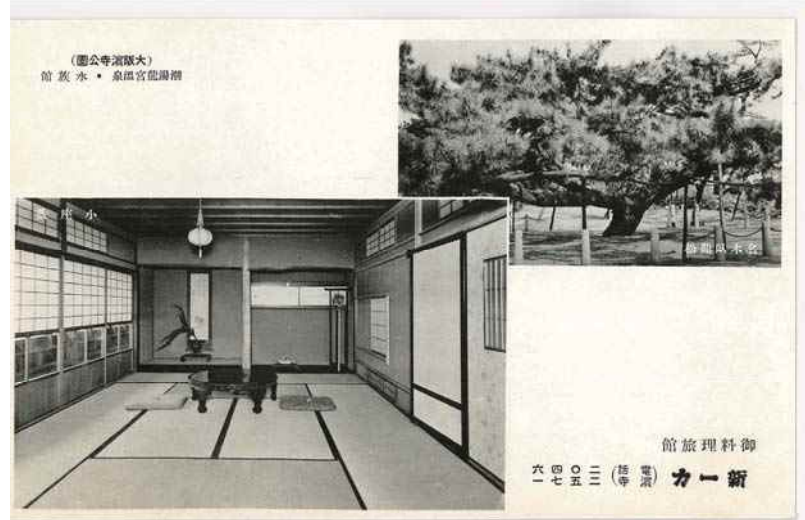


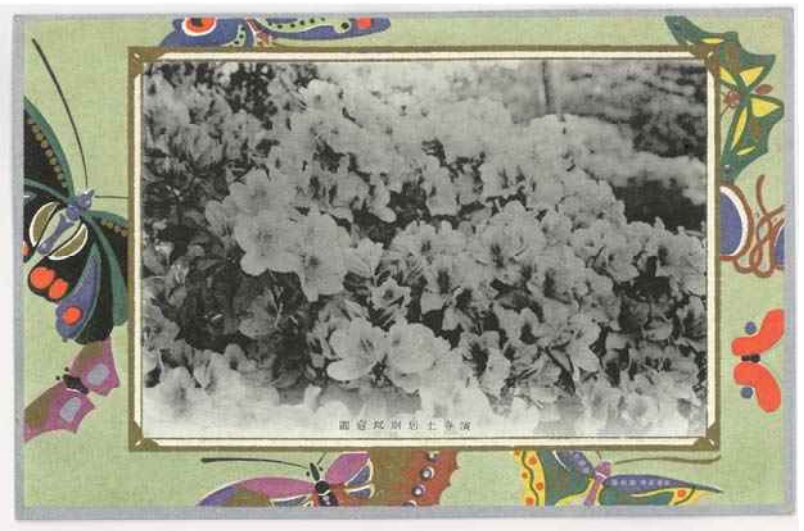
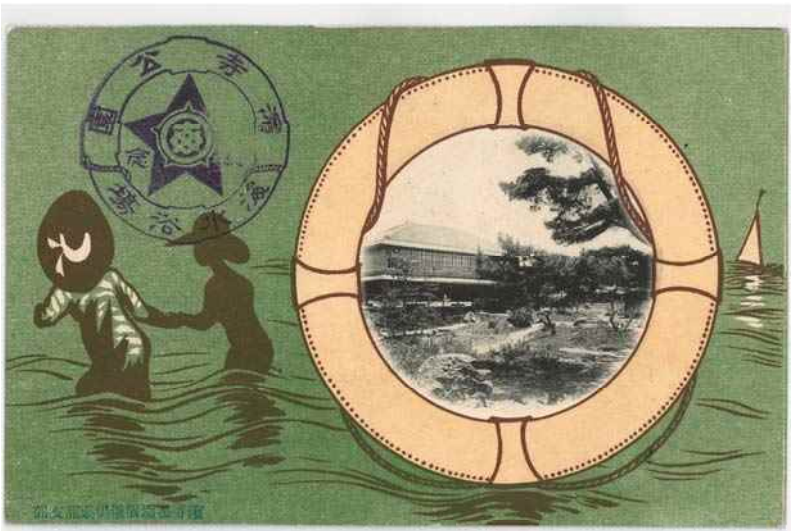
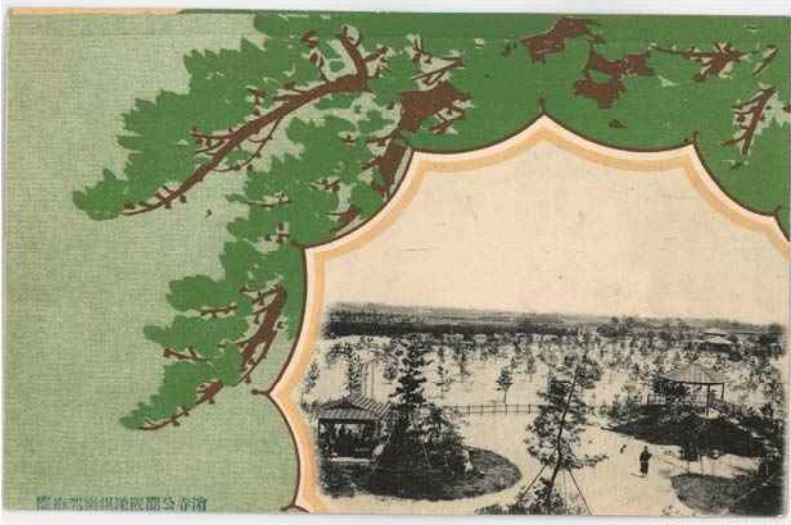
港堺ルヲ觀リヨ上樓



(地圃公寺濱州泉) 店支樓方一ルヲ觀リヨ場浴水海

資料提供：高石市教育委員会所蔵辻本攻コレクション ※無断転載を禁じます。



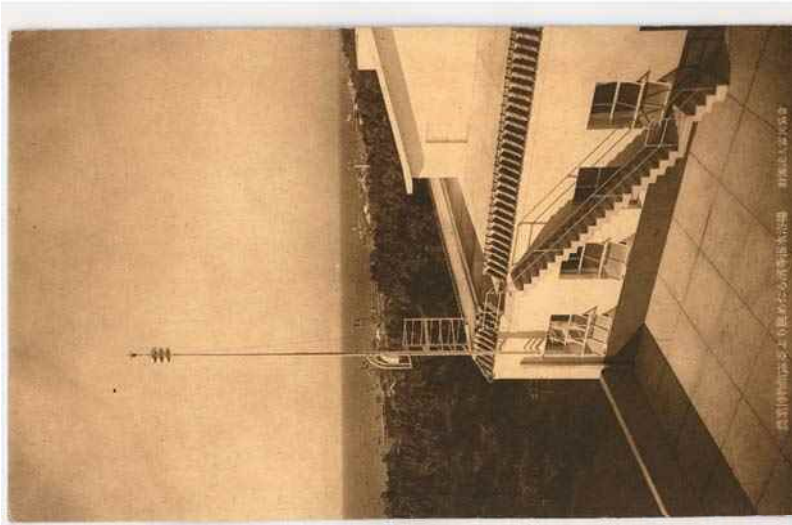


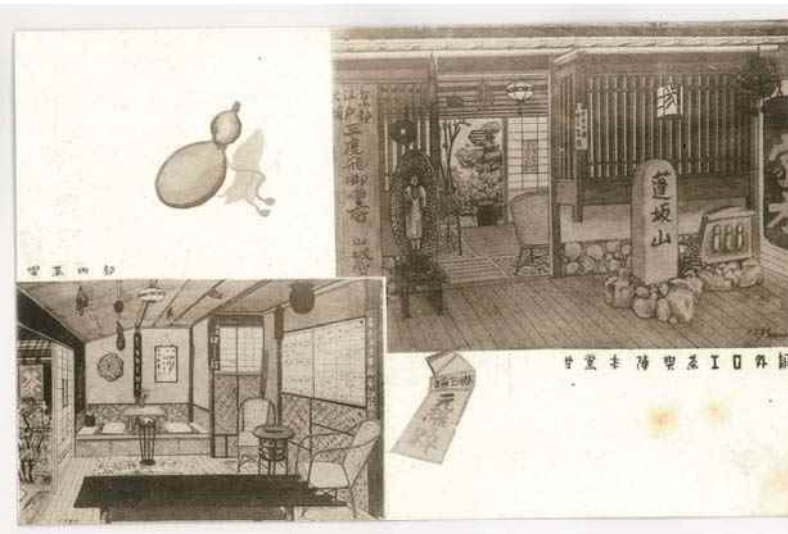
資料提供：高石市教育委員会所蔵辻本攻コレクション ※無断転載を禁じます。





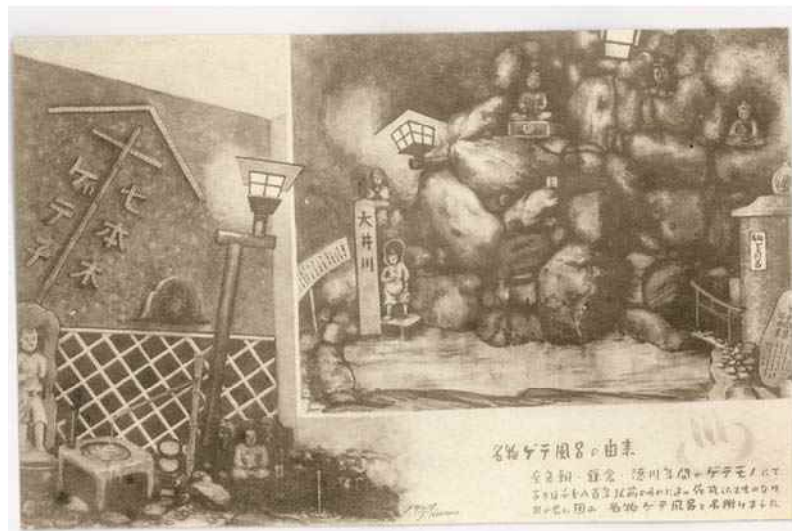
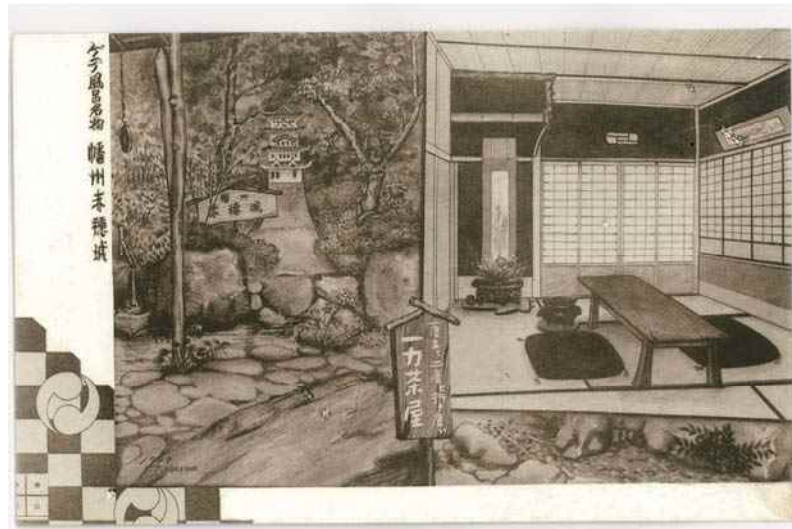
資料提供：高石市教育委員会所蔵辻本攻コレクション ※無断転載を禁じます。

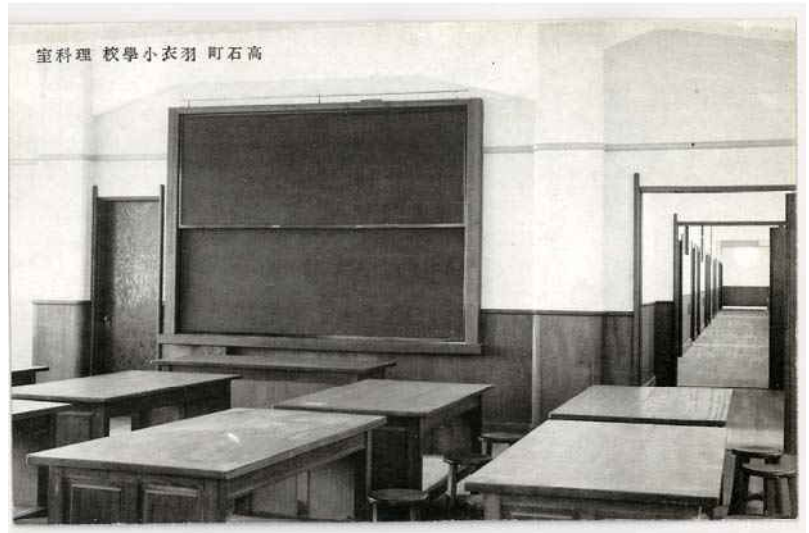




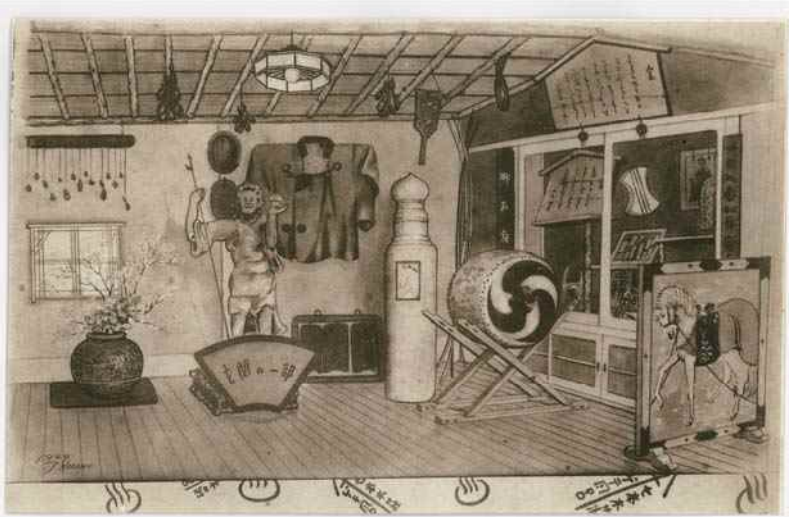
資料提供：高石市教育委員会蔵辻本攻コレクション ※無断転載を禁じます。







室科理 校學小衣羽 町石高



資料提供：高石市教育委員会所蔵辻本攻コレクション ※無断転載を禁じます。



資料提供：高石市教育委員会所蔵辻本攻コレクション ※無断転載を禁じます。

## 浜寺公園の松林の歴史 (大阪府保存資料 出典元不明)

浜寺公園は、縄文時代より人々が暮らしていた場所。

紀州熊野(熊野もうで)に通じる街道の風光明媚な所として、人々に愛されてきた。

浜寺の名前の由来は、「高師浜」と呼ばれていたこの地に、南北朝時代、お寺が建立されたことによる。奈良吉野にある寺を「山の寺」と呼んだのに対し、ここを「浜の寺」と呼んだ。それが浜寺の名の由縁。

当時から、すでに美しい松林があった。現在、このようにきれいな姿で私たちを楽しませてくれているが、幾度となく松林がなくなる危機にみまわれている。

それは、いつだったのか？

まず初めに、室町時代、応仁の乱、ここは戦場地となり戦火にさらされて松林がなくなった。

次には、江戸時代、田安藩の財政危機を救い、松は用材として高級であるため材として売るために伐採された。

その後、幕末、明治維新により職を失って生活に困った武士を救済するために伐採された。

そのとき、明治政府の実力者、大久保利通が遊覧で浜寺を訪れて、そのような事態を目にし、歴史に名高い松林を守るため伐採中止命令を発令。太政官布達により、わが国初の公園となり、松が守られた。

しかし、松林の危機はこれだけで終わらなかった。

第2次世界大戦では進駐軍の宿舎用地として、松林を伐採されて、白壁の住宅やチャペルが建設された。ラジオからジャズが流れ、将校たちが海を楽しんだ。消火栓が当時の名残りとして現存する。

そんな危機を幾度も乗り越えて、現在の浜寺公園となった。その永い歴史を思うと感慨深いものがある。公園になり、長年、松林を整備してきた。

通常、この公園面積からだると2000本〜3000本の植栽が適切と思われるが、現在、浜寺公園には4800本もある。

松の寿命は、およそ100年ぐらいであるが、中には大木となり、300年以上も長く生きるのがある。

残念ながら現在、浜寺公園で大木は見る事ができないが、明治時代には3つの名松があったと言われている。

かつて、紀州の殿様がこの地に立ち寄られた際、「これをわが庭に移す者があれば千両与えん」と言われたことから名前がついた。この松は千両松。

また、木の幹の空洞ができて、白蛇がいた。白蛇は神の遣いといわれ大切にされた。この松は白蛇松（はくじゃしやう）。

大松、傘松と呼ばれていたが、あまりにも枝ぶりよく、能の謡曲、羽衣にちなんで命名された羽衣松。

ちなみに、大鳥大社の松明（タイマツ）もこの浜寺公園の松が利用されている。

また、情熱の詩人・与謝野晶子は、堺の出身。母校は泉陽高校。鉄幹と歌会したのが「寿命館」である。寿命館があったところに、与謝野晶子の歌碑が建っている。碑は、もとは別のところにあった。しかし公園工事の都合で、現在のところに移転された。しかし驚くことにその場所が寿命館跡だったとか。

数々の逸話が浜寺にはある。

浜寺の松林年表

大阪府保存資料 出典元不明

時	事 項	備考
	<p>古来より景勝の地で、浜寺を中心に「高師の浜」と言い、万葉集など古歌にもよく詠まれた美しい白砂青松が続いていた。</p> <p>「大伴の高師の浜の松が根を枕き寝れど家し偲はゆ」</p> <p>紀貫之「おきつなみ たかしのはまの はままつの なにこそ君をまちわたりつれ」</p> <p>一宮紀伊「おとにきく高師の浜のあだなみは かけしやそでのぬれもこそすれ」</p>	<p>万葉集巻第一</p> <p>古今和歌集</p> <p>百人一首</p>
江戸中期ごろ	<p>海辺砂浜、小松所々ニ有（石津）</p> <p>砂浜五町四方程、内二町四方程小松林（船尾）～現在の阪堺線より東まで広がる。</p>	
寛永末年	<p>船尾村と下石津村で松林の境界を巡って訴訟</p> <p>小出伊勢守（山奉行）判定しがたく収公し、公儀御林として保護される。</p>	1640年頃
明治のはじめ 明治元年	<p>浜寺の松林は南北二四町、東西八町に拡大（1町＝約110m）</p> <p>田安家、松を伐開し開墾を計画</p>	
明治2年	<p>船尾・今在家・東下・西下・山内下の五カ村は白砂青松の名勝の地としての風致の保存と、水田の潮風を避けるのに役立つ松林の伐開の中止を願い出</p>	1868年
明治2年12月	<p>田安家、松の伐開を強行。五カ村は2500両で払い下げ</p> <p>当地は堺県（小河知事）となる。知事は田安藩に買得金を払い戻させ官有地とし、2639本の松林を保存する。</p>	1867年
明治6年7月	<p>明治5年9月困窮した士族に入札払い下げ、848本を残すだけとなる（2,639本のうち1,791本を伐採）</p> <p>内務卿大久保利通は名勝の廃絶を嘆き、税所篤県令に善処を要求</p> <p>「おとにきく 高師の浜のはま松も 世のあだ波は のがれざりけり」</p>	

時	事 項	備考
明治 6 年 11 月	県令は直ちに伐木停止を命じ、地代年賦金を免除	
明治 6 年 12 月	太政官布告(明 6.1.15)が布達され浜寺公園(南北 20 町 138,343 坪 約 48.8 h a)が選定された。	
明治 10 年代	稚松を植え付け。	
明治 14 年	堺県の廃止に伴い、大阪府の所属になる。	
明治 31 年	借松碑を建立	
明治 39 年	毎日新聞社が浜寺公園浜に海水浴場を開設。明治 30 年南海鉄道が 開通しており、京阪神からの客に賑わう。	
昭和 18 年 3 月	浜寺の老松 112 本を戦争のために造船用木材として伐採供出	
昭和 22 年	占領軍家族住宅地として公園接收。鉄柵で囲まれ海面を含み日本人 立入禁止。「千両の松」「羽衣の松」「三光松」など老松を含め 1700 本 の松伐採	
昭和 26 年	浜寺公園商店街を中心に「浜寺公園開放期成同盟」結成 府・市・各種団体が加わる。	
昭和 27 年	講和条約発効。公園の海面と海上だけが接收解除	
昭和 30 年夏	海辺の開放により海水浴再開	
昭和 31 年夏	夏の海水浴期間に限って公園内中央道路が開放	
昭和 32 年 4 月	突然、調達庁から接收解除予定情報の発表	
5 月	「浜寺公園返還促進運動と返還後の活用」についての準備会結成 大阪府も近代的な海浜公園の再建計画の具体化に動く。 近畿財務局、米軍ハウスを一般住宅用で払い下げ計画浮上。堺市長、 高石町長は府及び財務局に海浜公園計画の申し入れ	準備会：地元浜 寺商店会、青少 年問題協議会、 青少年補導連 盟、体育協会、レ クリエーション 協会、婦人団体、 青年団体
昭和 33 年 2 月	戦前以上の松の公園として復旧すべく返還と同時に住宅を撤去。 松の植栽	
昭和 33 年夏	浜寺海水浴場として賑わう。府は米軍建物の一部を「海の家」として 提供。「浜寺青少年の家」開設	
昭和 34 年夏	全域開放	
昭和 35 年	浜寺スイミングセンター着工	

時	事 項	備考
昭和 36 年	南海電鉄が浜寺ヘルスセンター建設	
8 月	泉北臨海部の埋め立ての府具体案提示	
9 月	第 2 室戸台風の猛禍により松 116 本倒木（高石町側）	
昭和 38 年 7 月	36 年夏で最後となった海水浴場の代わりに一万人が同時に泳げる東洋一の大プールセンターが開設	
昭和 40 年	接収当時 2500 本の松が 2000 本に減少。8000 本の苗を植える。	
昭和 43 年度頃	松喰虫防除を工事として発注	
昭和 45 年度頃	公害の影響か？松枯れが目立つ。	
	松活性作業として中木クラスから施肥を行う。	
昭和 45～46 年	松枯損原因究明の調査を行ったが決定的な結論に至らず。	
昭和 49 年度頃	成木になった松の移植が始まる(平成 4 年度頃まで)	
昭和 51 年度頃	松喰虫対策として 5 月から 7 月にかけて薬剤の 2 回散布始まる。	
昭和 53 年 8 月	異常渇水により松に被害	
昭和 54 年度頃	施肥工事を開始	
昭和 58 年 5 月	21 世紀に引き継ぎたい「日本の名松 1 0 0 選」に選ばれる。	(社)日本の松
平成 4 年度頃	松の剪定が始まる。	の緑を守る会